



フィラデルフィア日本人キリスト教会

教会便り第 166 号

2024 年 12 月 ❖ December

Church Journal No. 166

目次

創立 80 周年記念行事報告

大塚隆英兄2

80 周年記念説教

松野真理牧師4

森島先生からの祝辞

青山学院大学教授・森島豊7

フィラデルフィア長老会からの祝辞

POP 代表・Ruth Faith Santana-Grace 牧師8

柴川悦子姉からの祝辞

柴川悦子姉9

岡安牧師夫妻からの祝辞

岡安隆一・マーサ牧師夫妻9

日本支部からのお願い

宮本努・やより11

献金・送金

編集長；大塚隆英兄12

『恐れるな。見よ、すべての民に与えられる大きな喜びを、あなたがたに伝える。きょうダビデの町に、あなたがたのために救主がお生れになった。このかたこそ主なるキリストである。』



Merry Christmas

創立 80 周年記念行事報告

大塚隆英兄

11月17日素晴らしい秋晴れの日到我々は創立80周年記念行事を祝うことが出来ました。はるばる日本から3組のご夫婦が参加して下さい感謝です。

宮本努(1976-1992 and 2000-2003)・やより(1981-1992)夫妻

藤尾和人(August 1980-June 1981)実香子夫妻

山田葉子(January-August 1977)・壽郎夫妻

()内は Philadelphia 在住期間

まず礼拝には約30名の方が参加して下さいました。山田葉子姉の美しい organ 演奏で礼拝を開始、松野牧師が当教会の創立準備の段階から今日までの歴史を振り返り、青春時代に JCCP に携わり、日本に帰国後もサポートして下さいている方々が多い教会である事を強調され、これからも主にあって持続的な教会成長をして行くために、私たちは礼拝のお客さんから、神様を愛する真の礼拝者と成長するコミットメントが必要不可欠であると言う力強いメッセージがありました。続いて松野牧師が着任するまでの10か月間 Princeton から応援に駆け付けて下さった青山学院大学森島教授のビデオ祝辞を聞きました。

礼拝後直ぐ祝賀会が模様される The Ridley House に移動(車で約30分)、1時15分に開会を宣言し、まず Presbytery of Philadelphia の Ruth Faith Santana-Grace 牧師からの祝辞を Peter Ahn 牧師(牧師不在中の Session 議長)が代読下さり、それを松野牧師が日本語翻訳で紹介(P-x 参照)した後、食前の感謝の祈りをして、愛餐会に入りました。3種類のメニューからの美味しい食事を頂きながらそれぞれの table で楽しい会話が弾みました。ゲスト(18名)を含め総勢52名が揃った所で宮本日本支部長が、日本支部からのメッセージを紹介下さいました。まず柴川悦子姉(柴川秀夫牧師夫人 May 2005-January 2010)の祝辞を代読され、その後岡安牧師夫妻(1987-1989 and 1990-1994)の video message が紹介されました。また日本語補習校の福沢校長先生から激励のメッセージを頂きました。

その後デザートを頂きながら、Batta 女史の lead で全員が日本の唱歌3曲を歌いました。最高齢の高嶋幸さんが「赤とんぼ」を lead して下さいました。あっという間の2時間でしたが、皆さん楽しい時を持たれたようです。



Old friends

大塚兄、Janie 姉夫妻、宮本夫妻、大野夫妻

糸子姉、美登里姉、知恵子姉、明美姉、
葉子姉、勝子姉、民子姉、Linda 姉



Music Lovers



Younger Generation



「赤とんぼ」を歌う大塚兄、高嶋姉、Batta 姉



松野牧師、Nik 兄、高嶋姉、Batta 姉



藤尾和人・実香子

今回は多くのボランティアの協力で、楽しい 80 周年記念行事を終えることが出来ました。本当に皆さんの協力に感謝します。なお今回 80 周年記念特別献金として USA では 17 名の方から \$5,410 の献金を頂きました。日本ではこの時期(9 月から 12 月)に 15 人の方から約 35 万円(約 \$2,300 (¥150 per \$1))の献金を頂きました。感謝します。

これからもどうぞ皆様方のご愛と献身の賜物を頂戴し、主にあって成長しつづける教会でありますようにお祈り下さい。



80 周年記念説教

松野真理牧師

フィラデルフィア日本人キリスト教会 80 周年おめでとうございます。当教会は 1944 年 11 月 19 日にブラウンストリートにおけるフェローシップハウスにて集まりを持たれた時を起源としています。戦争状態という暗闇の中にあっても、神様のご計画は着々と進んでいたのです。JCCP 創立者の土山牧善先生は、プリンストンからフィラデルフィアに行き、転住されている日本人の住所を尋ね、住所リストを作成し、戸別訪問を始めました。フィラデルフィア地区の住居者は転々としていて、留守も多く、自動車もなく、バスに乗って全部を訪問することはとても大変でした。教会連盟の経済的援助がなく、伝道のための交通費、通信費、宿泊費、食事は全部自腹でした。しかし、戦時下にあって心細い日本人を訪問によって激励することは何と必要なケアでしょうか。いつ差別にあい、捕らえられて殺されてしまうかもしれない。そのような危機的状況をイエス様と共に乗り越えてきたのです。しかし、不便な中であって人と神様をつなぐ伝道は喜びと感謝に満ちていたのではないかと想像します。戦争中に、同じ日本語を話す一世の方々に、イエス・キリストの福音と信仰を伝えたい。その一途な気持ちに教師も信徒も反応し、共に主を愛するキリスト者として成長させていただいたと想像できるのです。

さて、戦争が終結し、時代は戦後復興へと進みました。フィラデルフィア日本人教会で奉仕される牧師は別の伝道場所へと移動されていきますが、神様はタイミングよく別の奉仕者を用意されておりました。坂口竜雄先生は 17 年間牧会され、1969 年からは島田嘉隆先生が 20 年間牧会されることとなりました。高度経済成長期に入り、留学生・駐在員が与えられる時代となりました。1984 年 9 月に現在の教会堂を購入し・移転することができました。その後は、

藤田正武先生・村田豊恒先生・柴川秀夫先生と続き、国際結婚される日本人女性の活躍の時代が続きました。2010年からは無牧の期間を乗り越え、田村寿宏先生、メアリー・クルス・ザンブラナ先生、そしてまた無牧の期間を乗り越え、2024年8月からは私、松野真理が牧師として担当することとなりました。「何事にも時があり天の下の出来事にはすべて定められた時がある。」コヘレトの言葉3:1に書かれています。また、箴言16:9には「人間の心は自分の道を計画する。主が一步一步を備えてくださる。」とあります。それは人間の欲望や願望での努力で歴史が動くのではなく、神様は最善の予定をあらかじめ立てておられるということです。私たちは自分の思いが実現されなければ、不安になり、焦り、物事を強引にお金や権力で進めようとしめます。しかし、神様はそうされません。神様は自分を偽る事ができません。神様のご計画と予定時間配分は私たちの予定を超えて完全であります。私たちはその信仰に従って神様の御心を祈り求めていきましょう。

「80年続いた教会を持続的に経営するには、新たな世代の信徒の獲得が必要です。」この信仰の継承というテーマは現代日本における大きなテーマだけでなく、世界的に同時に進んでいる大きなテーマなのです。現代社会はインターネットなどによるコミュニケーション手段が発達し、画面をタッチすることで必要な商品を購入できる便利な時代になりました。しかし、教会は一人で生きるのではなく、人間が愛し合い、助け合う場所です。その豊かな愛の経験を次世代へと受け継ぐ唯一の存在なのです。まさに、私たちの家庭は教会であり、キリスト者が集まる場所が本来の教会なのです。教会の頭はイエス様です。イエス様の愛と私たちは誰も切り離すことができません。イエス様は教会を愛されます。私たちは教会を愛します。教会の目的は、和解と癒しと成長を促す場所です。和解とは仲直りをする事です。まず、私と神様の関係において仲直りを提供する場所です。神様との約束を犯してしまったアダムとエバの子孫である私たちは、生まれながらに罪の奴隷にある呪われた者でした。しかし、愛の方である神はその独り子であるイエス・キリストを地上に送り、十字架に架けることによって、神様と私たちが和解しました。イエス様は和解の使者であります。そして、キリスト者はこの世の断絶がもたらす隣人との不仲との和解者となるのです。

第二に教会は癒しを受ける場所です。私たちの的外れな生き方によって、私たちの魂は多かれ少なかれ傷ついています。イエス様の罪の赦しはその私たちの傷ついた自己を本来あるべき姿に戻す癒しのプロセスであります。私たちは自分と他人を比べることで優越感や劣等感を感じてきました。そして、一人の個人がイエス様によって和解と癒しを経験すると、次は成長が引き起こされます。そして、生活のすべてが神様を礼拝する行為となります。主にあって本来の私を取り戻した私はこの喜びを隣人に伝えたくておられません。主の腕となる働き人へと成長させていただけるのです。そして、隣人に福音を伝える者となり、教会は成長を続けていくのです。

現代はオンライン・マーケティングの時代です。しかし、教会信徒になるというのは商品をオンライン購入するのと訳が違います。それは神様を愛し、隣人を愛し、教会に仕えるというコミットメントが求められます。神様は一瞬で人間を成長させる力をお持ちですが、一人の人間が和解と癒しを体験し、成長するには長い時間がかかります。そして、一人で成長するではありません。共同体である教会全体が共に成長させられるのです。神様は心を尽くして神様を礼拝する者を求めておられます。そして、礼拝する者をおこさせてくださるのです。教会員が愛し合う姿を見て、世の人々はその姿からイエス様を見るのです。

この 80 年の主の良くしてくださったことを振り返り、感謝しましょう。そして、目の前の現実はいつの時代も困難です。戦争と飢餓の時代の危機的時代から、神を失い、自己中心と孤立する危機的時代となりました。しかし、聖書は言っています。「これらのことを話したのは、あなたがたが私によって平和を得るためである。あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。私はすでに世に勝っている。」ヨハネ 16:33 です。イエス様なしでは生きていくことができません。『忠実な良い僕だ。よくやった。お前は少しのものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。』とこの世で生きて、教会のために奉仕した私たち一人を天国で労をねぎらってくださいます。また、イエス様が愛された教会に愛と喜びを持って仕える者がさらに新しく加えられるように、祈りましょう。



森島先生からの祝辞

青山学院大学教授・森島豊

このたびは教会創立 80 周年、おめでとうございます。本当は皆さんと一緒に過ごしたかったのですが、皆さんが 80 年のお祝いを迎えられること、本当に嬉しく思い、その喜びを一緒に味わいたいと思い、その祝福の言葉を届けます。

私は皆さんと一緒に礼拝した日々のことをよく覚えています。日本と違ってアメリカで過ごされた皆さんとの出会いとそして経験の言葉を今でも心に深く収めていて影響を受けました。何よりも私がとても皆さんと過ごしていて嬉しかったことの一つは、皆さんが、よく聖書のみ言葉を聞いてくださることです。本当に聞く耳のあるものは聞きなさいというように、皆さんがよく聞いておられたことを今でも嬉しく覚えています。そしてもう一つ、これは

本当に嬉しかったことですが、皆さんが、説教が終わった後に礼拝の後にいわゆる説教批評をしてくださることでした。どの聖書の言葉が、あるいはどのメッセージが自分に響いたのか、どうしてその言葉が自分にとって良かったのか、そのことをちゃんと毎回私に伝えてくれました。日本の教会ではこういうことはあまり経験したことがありません。フィラデルフィア日本人キリスト教会の皆さんだけが私に味わせてくださった嬉しい思い出です。やはり、皆さんがこれまでもずっと聖書の言葉に耳を傾けて、イエスキリストの言葉に耳を傾けて来られたことが、この 80 年の歩みをずっと培ってきしるしだと思います。

さらにもう一つ、私がとても心に響いて、覚えていることがあります。それは私の幼稚園の園長先生が、そのフィラデルフィア日本人キリスト教会の最初の創設牧師のお一人だったということです。教会の便りを読ませていただいた時に、その土山牧善先生が 50 周年記念の時にメッセージに来られた時のことが記されていました。先生は「あの自分がアメリカで祈祷会のようにして始めた教会が、まさかまだあるとは、思ってもみなかった。」とすごく驚いて感動して、そして祝いの席に来られたと書かれてありました。人間の考え方で言えば、いつ消えてもおかしくなかったのだと思います。でも、誰かが種をまき、誰かが水をやり、神様が成長させてくださったのです。そのことを目で見ると、確かに心に感じて、そして実際にその交わりの中で、ああ、神様が来ておられるということを確認めたくて、先生は来られたのだと思います。そして今、それが 80 年の年月を数えることができました。人間的に見れば不可能だったかもしれませぬ。神様が生きて働いておられるそのことを証しするフィラデルフィア日本人キリスト教会があることを、私はとても嬉しく思っています。

モーセは 80 歳から伝道を開始しました。フィラデルフィア日本人キリスト教会 80 年、これからまた始まります。いろんな言葉も聞こえるかもしれませぬよね。弱音を吐くことや社会の波も聞こえるかもしれませぬ。でも、神様は皆さんを通して、そして皆さんの手の働きを超えて、今もこれからもずっと働き続けていかれます。そのことを証する私たちの大事な教会として、これからもいつまでも神様の祝福が豊かにありますようにお祈りしています。

このたびは本当におめでとうございました。また会えることを楽しみにしています。さようなら。



フィラデルフィア長老会からの祝辞

Presbytery of Philadelphia
Ruth Faith Santana-Grace 牧師

親愛なる日本人キリスト教会の兄弟姉妹の皆様、

主イエス・キリストの名において恵みと平和をお祈りいたします。4大都市圏の一つであるフィラデルフィアにおいて礼拝と宣教を行っているフィラデルフィア日本人教会の兄弟姉妹皆様方へ、祝福をお祈りいたします。

私はこの場にいませんが、1944年以來、何十年にもわたって形成され、改革されてきた信仰の家族である皆さんとの教会生活の中で、80年を共にお祝いできることを感謝します。皆さんの証が、より大きなコミュニティ、特にこの国で生活する日本出身者のために、キリストの愛を提供し、奉仕してきたことをお祝いいたしましょう。皆さんの物語は明らかに、偉大な忠実と復活の希望の物語です。あなた方の最初の精神は第二次世界大戦後に強制収容所から出てきた第一世代の日本人に奉仕し、励ますことで形作られてきました。80年経った今も、あなた方は迫害されたり、他者から疎外されたりしているすべての人々のために神の正義を追求する方法を模索し続けています。特に貧困と欠乏、否定、絶望の声によって生きる希望が脅かされている時代に、あなた方が内外の日本人コミュニティにとって希望の光であり続けることを願います。目の前の厳しい現実問題に取り組まなければならないことは疑いの余地がありません。そして祈りによる決断が必要になります。これは復活されたイエス・キリストの子供であると主張する私たち全員に当てはまります。

しかし、お祝いの日である今日、神の子供たちがファラオの束縛と抑圧から解放された後にミリアムがしたように、私はあなた方に歌い、踊るよう勧めます。主があなた方のために、そしてあなた方と共にしてくださったことのために歌い、踊りましょう。希望をもってお祝いを形作りながら、歌い、踊りましょう。そして、次世代のために神聖な物語の次の章を書き記すとき、私たち一人一人に命を吹き込む天国の息吹によって、あなたの証言が力づけられますように。イエスが、この世で共に歩んだ人々から天国へと昇っていった時に約束した「私はこの世の最後まで永遠にあなたがたと共にいる。」という言葉をお出ししてください。神のご加護がありますように。

柴川悦子姉からの祝辞



柴川悦子姉

(故柴川秀夫牧師夫人;2005年5月-2010年1月)

此の度は、教会創立 80 周年を迎えられたこと、心よりお祝い申し上げます。先の世界大戦末期から今日までの 80 年間、神様の御手に導かれ守られてこられたお恵みを感謝し、御名を讃えます。

日本も大戦後 79 年になり、敗戦の混乱と激動の中、国家も教会も厳しい再建の道を歩んで参りましたが、JCCP もアメリカの地で多くの困難な出来事や試練にあったことと推察いたします。牧師招聘、教会堂所有と管理、教会活動に係る運営に財政、礼拝者の減少等の問題に対峙されて来られた労苦は並大抵ではなかったでしょう。長老役員を始め、教会員の方々多大な愛労とお祈り、信仰が神様の御心にかななって支えられ、乗り越えられたことと確信いたします。

その教会の歴史に僅かながら夫の秀夫と共に関わらせていただきましたことを感謝しております。あの 5 年間の日々を懐かしく思い起こします。加えて、今回就任された松野真理牧師は、夫が生前在任中に何故か牧師への道へ『推し』た青年であったことを思い合わせ、これからの主イエス・キリストの福音宣教活動に彼の若い力と信仰が用いられ祝されるように願います。そして、今世界が闇の方に覆われかけ分断し争いが激しくなっている時、キリストの平和の光が輝きますように切にお祈りいたします。



岡安牧師夫妻からの祝辞

岡安隆一・マーサ牧師夫妻

フィラデルフィア日本人教会の皆様、こんにちは。私は岡安隆一です。妻のマーサです。80 周年記念大変おめでとうございます。ここまで長い間、JCCP を主が導き、祝福して下さったことに感謝いたします。

私たちは 1987 年から 2 年間ほどと、1990 年から 1994 年まで 4 年間ほど JCCP にお世話になりました。その間 Philadelphia で 2 人の子供が産まれたこと、また教会の 3 階に住まわせていただいたこともあり、Philadelphia はとても懐かしく、さまざまの思い出があります。私は当時若い研究者でしたので、決して裕福ではありませんでしたが、皆様の主にある愛をいただき、また JCCP で

の礼拝とその後のお交わり、また家庭集会等では有意義な、すばらしい時間を持つことができ、感謝です。これはまさにヘブル人への手紙 10 章 25 節、"ある人たちの習慣に倣って自分たちの集まりをやめたりせず、むしろ励まし合いましょう。その日が近づいていることが分かっているのですから、ますます励もうではありませんか。"この聖句の通りであります。

30 年以上たった今でも日本支部の宮本ご夫妻のご努力で、教会便りを受け取ることができ、日本でも reunion を定期的にもできて感謝です。またいまだに当時の長老であった大塚さんや田原さんが活躍されていることも感謝です。

さらに私がリタイアしてから神学校を卒業し、この 4-5 年間、東京の東久留米の Kurume Bible Fellowship 教会で牧師として奉仕できたのも、フィラデルフィア、JCCP の経験が基礎になっています。本当に感謝です。

どうか次の 80 年いや 100 年も JCCP に主の豊かな導き、祝福がありますように、お祈り申し上げます。本日はおめでとうございます！

JCCP 80th Anniversary

Congratulations to each one of you on the celebration of JCCP's 80th anniversary. I'm Martha Okayasu and we attended JCCP from 1987-94. We praise God for His faithfulness and though we long to be with you to celebrate in person today, we rejoice that technology allows us to send our love and prayers on this special occasion. Philippians 2:1-2 tells us "... if you have any encouragement from being united with Christ, if any comfort from his love, if any common sharing in the Spirit, if any tenderness and compassion, then make my joy complete by being like-minded, having the same love, being one in spirit and of one mind." We thank God for how He has encouraged us through our worship and sharing our lives during our time at JCCP. Our fond memories include joining in many home Bible studies and eating wonderful Japanese meals with many of you. Our son Yoshi was born while we lived up on the third floor and if I was busy, many times someone came upstairs to take care of him. Friday evenings were spent with the Wakamono Seiken in the basement with the college students loving on our kids. The annual bazaars were a lot of work, but a wonderful outreach to the Japanese community. When the neighbor's tree fell and totaled our car parked in the driveway, the testimony of JCCP members who knew that the tree was dying persuaded the insurance company to reimburse us. As the years pass and members come and go, we continue to praise God for the continuing ministry of

JCCP and ask that as the baton continues to pass on to new members, that JCCP will continue to shine the light of God's love with unity into the next 80 years. (Martha)

日本支部の皆様への願い

80周年の記念礼拝に参加したあと松野牧師と教会のインターネットを担当されているNikさんとでJCCP USと日本支部との交流についてお話しする機会がありました。

私は以前から教会便りのことで、考えていることがあります。私とやよりさんはJCCP USから送られてきた原稿を編集して印刷・発送をしています。でも私とやよりと二人だけでやるよりもっと多くの方のご意見を頂きより良いものにしてはとの思いが与えられました。

そのアイデアを皆様と分かち合いたいです、一つは教会便りの内容を刷新することです、私たち二人だけでなく編集に協力してくださる方を募集したいと思います。

複数の方により、アイデアを出しながら、USから来る原稿を編集したり、日本支部発信の内容を加えるのはどうでしょうか？

表紙や全体のデザインも工夫してみたいと思います。

日本支部の名前と支部長（ちょっと堅苦しい）という私のタイトルももっと親しみのある名前にしたいです。

インターネットを使ったコミュニティーを作る、松野牧師のFBもその一つのアイデアですが、NikさんがいまUSの若者たちとアイデアを模索していますので近いうちに提案があるかもしれません。

もし日本支部の教会便りにご意見のある方、また編集に興味のある方はご連絡ください。

皆様の健康が守られ、良いクリスマスと恵みの新年をお迎えくださるようお祈りいたしています。

宮本努・やより Gea03430@nifty.com 080-2057-5697

習志野市鷺沼台 3-15-27



お返事
待ってるね!

献金のお願い

フィラデルフィア日本人キリスト教会では、一人でも多くの人たちにイエス・キリストの福音を知っていただくために、様々な活動を通して宣教・伝道に奉仕しています。これらの活動支援のため皆様の尊い献金のご協力をお願い申し上げます。



❖ 献金を捧げて下さる方は下記へお願いいたします ❖

<日本にお住まいの方のお振り込み先>

銀行名:三井住友銀行船橋北口支店
口座名:フィラデルフィア日本人教会岡千春
口座番号:562232

銀行名:ゆうちょ銀行 (019 店)
口座名:フィラデルフィア日本人教会日本支部
口座番号:00190-0-0496440

<郵送先>

アメリカで献金される方は下記住所に郵送ください。

Japanese Christian Church of Philadelphia
6301 Drexel Road, Philadelphia, PA 19151+2511

または online で Venmo を通して送金することもできます。

